

かまた きよえ
鎌田 清衛

おおくまふるさと塾 顧問

昭和 17 年（1942）、茨城県龍ヶ崎市生まれ。

3 歳より大熊町で育つ。双葉農業高校卒業後はナシ園を営みながら、

ふるさとの良さを発見しようとする「おおくまふるさと塾」の一員として活動。

2016 年 3 月、「残しておきたい大熊のはなし」を出版。大熊町文化財保護審議委員。

震災時は、ナシ畑で作業をしていました。

その後、原発事故が起こり寝たきりの母をワゴン車に乗せて
妻とともに着の身着のまま避難したことが忘れられません。

2011 年末に一時帰宅ができた時に、

以前に町内の方々から聞いた逸話を記したメモを発見。

それからは、一時帰宅のたびにメモや資料を探して 1 年半かけて持ち出しました。

2013 年に自宅が中間貯蔵施設の用地に入ることが決まり、30 年は帰れない見通しが出たことで、断片的なメモを本に残そうと決心しました。あらためて町民の方々に話を聞き、町史などで確認しながら口伝えで語り継がれた 31 話をまとめて 1 冊の本に。実名や町の方言をそのまま残したかったので、語り手の言葉をそのまま文字にした部分もあります。原発立地だけが熊町の歴史じゃないという思いと、将来新たに住む人々に「大熊ってこういう町だった」と知ってほしい。

これからも大熊町の歴史や昔ばなし、文化財を守りながら未来へ語り継いでいきたいと思っています。あのふるさと大熊の大地は我々だけのものではなく、これから生まれてくる未来の人たちが使うものなんです。だからこそ、100 年先、500 年先を考えながら安全に住める場所に再生することを願っています。



『残しておきたい大熊のはなし』（右）と
2014 年に自費出版した『日隠山に陽は沈む』